

政友みらい行政視察報告書（平成24年8月20日～23日）

参加者：山菅 直己、篠原 一世、荒井仁市、井川克彦、小暮博志 以上5名

20日(月)視察：北海道小樽市 『「小樽の食品」海外販路開拓支援事業』について
小樽ブランド力推進事業について

説明：産業港湾部産業振興課長	徳満康浩
産業港湾部商業労政課長	渡辺一博
市議会事務局事務局長	田中泰彦
市議会事務局	井沢有里

『「小樽の食品」海外販路開拓支援事業』について

小樽市は人口約132,000人で、近年では、小樽運河や石造倉庫群をはじめとする歴史と文化、海・山など地域の特性を生かしたまちづくりにより観光地となり、「商工港湾都市・観光都市」となっている。

平成23年には、観光客が603万6000人に上がっているとのことであった。

月曜日であったが、小樽運河やガラス工芸の店には観光客が多く見られた。

この様な中、海外販売にも力を入れており、以下のような事がなされている。

- 平成15年：「小樽市地域経済活性化会議」発足
(産学官が連携し民間活力を引き出す地場産業の振興や新たな産業の創出のため)
- 平成16年：(香港そごう)へ「北海道小樽フェア」を出展。12社参加。予算処置なし。
- 平成17年：(台湾・太平洋そごう)へ「日本商品展」を出展。9社参加。予算処置なし。
(台湾そごう)へ「北海道小樽フェア」を出展。6社参加。予算処置なし。
- 平成19年：(台北市)で台湾商談会の開催と(太平洋そごう)へ出展。9社参加。予算処置なし。
- 平成20年：(台北市、台中市)で台湾商談会の開催。25社参加。1,000千円補助。
香港商談会の開催。25社参加。1,000千円補助。
ロシア・ウラジオストック現地市場調査
- 平成21年：中国・上海市現地市場調査 4,000千円補助。
- 平成22年：中国・上海市で「北海道の後志・小樽の物産と観光展」を開催。2,900千円補助。
『海外販路拡大補助金』40件(952千円)
- 平成23年：『海外販路拡大補助金』6件(261千円)
『商談会・展示会補助金』12件(905千円)
- 平成24年：海外販路拡大補助金の継続 』
『「小樽の食品」海外販路開拓支援事業』、緊急雇用創出事業で2名雇用。

この様に、経済発展が大きき新たなマーケットを開拓すべく事業を展開してきたが、継続的なビジネスにはなかなか結びついていない状況にあるとのことである。

しかし、これからの事業開発のため、努力していることを高く評価し、見習う点である。

小樽ブランド力推進事業

小樽市は、「ブランドとは、つくり手が決めるものではなく、お客様がきめるもの」という基本的な考えに立ち、既存製品の磨き直しや新たな商品開発のためのコーディネートを行っているとのことである。

ブランドづくりに対して、佐野市との考え方の相違を感じた。

価格競争に巻き込まれないための高付加価値商品づくり(薄利多売から適量生産と適正利益を目指す商品開発)を進めようとしている。

そのため、3年計画でプロにお願いして、この事業を進めている。平成24年予算、7,350千円。

現在、北海道の物産品(スシ、ガラス、オルゴール)の拡大をしているが、その他の新商品開発を考えている。

佐野市も、小樽市のように、新商品開発への支援も必要？。

21日(火) 視察：北海道千歳市 千歳市防災学習施設事業について

説明：市防災学習交流施設施設長 小林幸司
説明員

千歳市防災学習施設事業について

千歳市は、人口約93,600人で、自衛隊基地が市街地の三方を取り囲んでいる。そして、自衛隊関係者が1/3ほどいる、とのこと。

市街地の縁周辺には、装軌車両(主に戦車)が頻繁に通行するため、沿線住民が騒音振動による被害など寄せられたいた。

国の防衛施設周辺地域の発展に貢献しようとする「まちづくり構想策定支援事業」で、沿線の課題解決と、総合的な防災対策の推進や自主防衛組織の充実などの観点から、災害に強い安全なまちづくりの整備を進めた。

総事業費は約21億円で、平成22年完成。国庫補助率は75%。補助裏として起債75%、市債25%。防災学習交流施設「そなえーる」は、総面積約8.4haで、A・B・Cゾーンからなっている。

A ゾーン：4.3haで、3階建延べ面積2,000m²の防災学習交流センター、防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫、常設ヘリポート、駐車場など配置。

「そなえーる」には災害を「学ぶ」「体験する」、「備える」をテーマにした展示や、機具を設置。

B ゾーン：「学びの広場」は広さ1.1ha、消火体験や救出体験広場と雨水調整池。

C ゾーン：「防災の森」は広さ3haで約150人がキャンプ利用できる「野営生活訓練広場」、調整池を兼ねた「多目的広場」、湧水を利用した「河川災害訓練広場」「土のう訓練広場」、アスレチック遊具などを設置した「サバイバル訓練広場」のほか管理棟、駐車場を配置。

利用者数は、平成22年4月24日オープンから約2年で、10万名の方に災害の模擬体験や防災学習、訓練をして頂いたとのこと。

私達も、煙りの中での避難訓練、関東大震災の地震体験、高所の建物からのロープ避難体験等をしてきました。良い経験をすると共に、学習の大切さを実感。

(資料添付)